

学部 / 看護専門領域 / 健康・疾病・障害の理解科

目コード:130007

解剖生理学演習 Practice: Human Anatomy and Physiology

担当教員	市丸 徹				
実務経験					
開講年次	1年次前期	単位数	1	授業形態	演習
必修・選択	必修	時間数	30		
Keywords	解剖学、生理学				
学習目的・目標	解剖生理学演習では、解剖生理学と連携して講義を進め、人体が健康な状態を保つしくみを学びます。 【目的】 人体で生じる様々な生理現象のメカニズムを学び、体内環境の恒常性が維持されるしくみを理解する。 【目標】 1. 恒常性の維持に関わる生体調節について、関与する複数の器官の役割を交えて説明できる。 2. さまざまな生理的指標の正常値を説明できる。				
授業計画・内容					
回	内容				
1	人体の基本構成	身体の構成成分、体液の区分と組成、細胞の構造			
2	細胞膜のはたらき	細胞膜の構造とはたらき、静止膜電位と活動電位			
3	神経組織のはたらき	神経系の組織構造、神経伝導、神経伝達			
4	筋収縮のしくみ	筋組織の分類、骨格筋の構造、興奮収縮連関、筋の疲労			
5	関節の構造と動き	関節の種類と構造、主な関節運動			
6	中枢神経系のはたらき	大脳皮質の機能局在、脳室			
7	自律神経系のはたらき	自律神経の構造、自律神経の作用			
8	心臓の拍動するしくみ	刺激伝導系、心筋細胞の特徴、冠循環			
9	血液のはたらき	血液の成分、血液細胞、止血と血液凝固、血液型			
10	呼吸調節のしくみ	ヘモグロビンの性質、呼吸ガスの運搬、呼吸中枢			
11	消化と吸収のしくみ	消化液の性質、消化液の分泌調節、栄養素の吸収			
12	血糖値の恒常性	吸収後の栄養素の利用、血糖値調節に関わるホルモン			
13	尿生成のしくみ	ネフロンのはたらき、尿成分の調節に関わるホルモン			
14	体液の恒常性	体液浸透圧の調節、体液量の調節、血圧調節			
15	骨の構造とはたらき	骨の組織構造、Ca代謝の調節			
教科書	系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能①、坂井建雄、岡田隆夫著(医学書院、2022) 教科書とあわせて、各回で講義資料(PDF)を配布します。				
参考図書等	なるほどなっとく！解剖生理学(改訂2版)、多久和典子、多久和陽著(南山堂、2019) 解剖生理学ワークブック、坂井建雄、岡田隆夫編(医学書院、2019)				
評価指標	成績評価対象者:出席2/3以上。レポート提出者。 講義終了後に試験を実施します。 試験80%、レポート20%で評価します。				
関連科目	解剖生理学、代謝と栄養、解剖生理学実習、疾病障害論、人間病態学、他多数				
教員から学生へのメッセージ	解剖生理学と同じく、この科目で修得してほしい事項は非常に多いです。講義ではできるだけ分かりやすく話しますが、時間内に扱える分量には限りがあり、またその内容を理解するためには予習、復習などの自習は欠かせません。講義で割愛した部分についても、教科書等を活用して自主的、積極的に勉強して、分からないことがあれば講義中でも、放課後でもいつでも質問してください。自分で勉強をしない人は、何を質問してよいかも分からないものです。たくさんの質問が来ることを、期待してお待ちしています。				